国際保健医療活動IIにおける台湾研修について

神戸常盤大学　保健科学部　診療放射線学科
講師　長谷川大輔

研修内容

2024年5月25日から5月31日まで国際保健医療活動IIの科目で台湾に行きました。参加学生は診療放射線学科4年生の4名であり、4名中2名は初の海外でした。本研修では台東市のTaitung Christian Hospital と台北市のBecquerel and Sievert社に行きました。Taitung Christian Hospitalは、台東市にある最も大きな病院であり、地下3階地上11階建てで約260床のベッド数と多数の診療科を有しています（写真1)。台東市では唯一PET検査を受けることができる病院であり、本年6月中旬からの診療開始に向けて準備を行っています。学生達は、核医学検査室における放射性医薬品の管理方法、SPECT/CT装置とPET/CT装置の品質管理、自動投与装置の設定方法などについて学びました。自動投与装置については投与ルートのセット方法まで指導してくださり、大変勉強になったものと思います（写真2)。またTaitung Christian Hospitalはその名の通り、キリスト教の病院であり、その病院の歴史についても学ぶことができました（写真3)。

Becquerel and Sievert社は放射性医薬品を製造する際に使用するホットセルや放射線防護関連製品を製造する企業であり、今回われわれは企業が販売する製品や開発現場を視察しました（写真4)。Becquerel and Sievert社は放射線防護壁も開発しており、福島原発事故ではその放射線防護壁が活躍したというお話を聞くことができ、大変勉強になりました。また、Becquerel and Sievert社の社員であるBruceさんが今回われわれの研修を終始サポートしてくださり、高いホスピタリティと陽気な人柄から、忘れられない出会いとなりました。

台湾文化

訪問した時期の台湾の気候は雨季の初期であり、気温は30度程度でした。台湾の気候は「Changeable」と説明されましたが、雨が降ったり止んだり晴れたり曇ったりと一日の中でも目まぐるしく変化しました。台湾では中国語が話されており、学生達が必死に中国語を覚えようとしている姿がとても非常に印象に残っています。私は好吃（ハオチー：美味しい）を何とか話せるようになりました。宗教は仏教の方が多いようですが、最近はキリスト教やイスラム教など多種多様になっているようです。台湾の食事は中華料理に似ていますが、あまり辛くなく、独特なスパイスによる香りが特徴的でした（写真5)。

さいごに

今回の研修では台湾における核医学診療を学習しましたが、台湾の台東市という地方部

においても最先端の医療機器や環境が整えられており、日本と変わらない先進的な医療状況を学ぶことができました。台湾は日本に統治されていた歴史があるものの、台湾の方々は非常に温かくわれわれに接してくださり、台湾の方々のホスピタリティの高さがとても印象に残っています。今回お世話になった方々とは今後も友好関係を築いていきたいと思います。ありがとうございました。

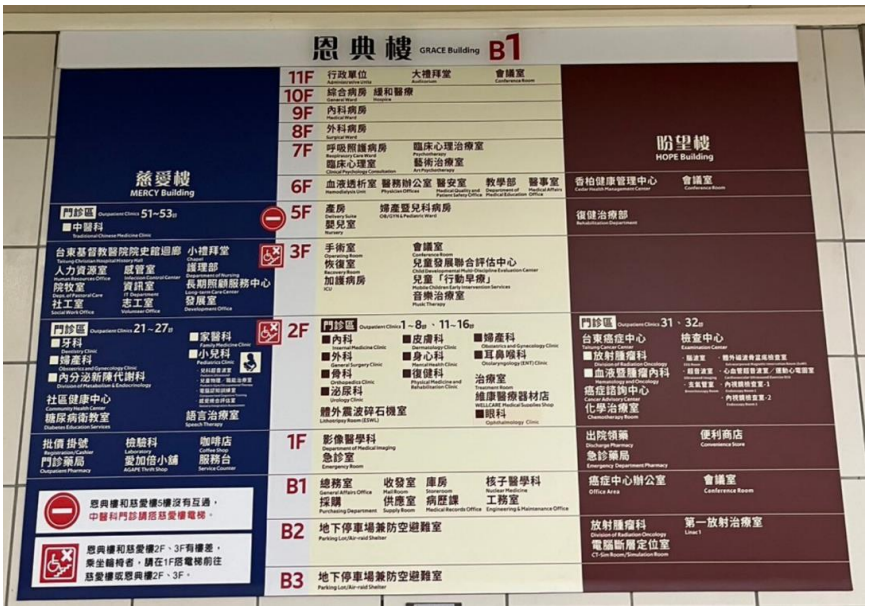

写真 1

Taitung Christian Hospital の案内図。地下に防空避難室や 3 階に音楽治療室、7 階に芸術治療室があることが特徴的である。

写真 2

放射性医薬品の自動投与装置の使い方について学習する様子。

写真３

牧師とともにお祈りする様子。

写真４

ロボットアームによる放射性医薬品自動合成システムの開発現場。

写真 5

台湾の一般的な食事。画像手前は刀削麺（日本のラーメンのような麺類)、画像右はルーローハン（豚丼のような丼物)。